

5. 頭頸部悪性黒色腫の  $^{123}\text{I}$ -IMP SPECT

西本 均 吉田 祥二 福本 光孝  
 吉田 大輔 沢田 章宏 上池 修  
 山本 洋一 猪俣 泰典 小川 恭弘  
 前田 知穂 (高知医大・放)

頭頸部悪性黒色腫4例に Ga シンチグラフィを施行し、そのうち3例に  $^{123}\text{I}$ -IMP シンチグラフィを行った。

$^{123}\text{I}$ -IMP シンチグラフィを用いた悪性黒色腫の診断は、その集積機序からみて特異性が高く診断的意義は大きい。特に頭頸部の悪性黒色腫のうち、顔面骨領域発生のものについては  $^{123}\text{I}$ -IMP の脳への生理的集積とのオーバーラップがあり、planar 像より SPECT 像の有用性が高い。また、SPECT 像により他の modality の断層像との比較が容易で進展範囲の把握に有用であった。しかし、melanin 非産生腫瘍 melanoma 1例に  $^{123}\text{I}$ -IMP が集積したことは、 $^{123}\text{I}$ -IMP の集積機序に関してさらに検討を要すると思われる。

## 6. I-123-OIH レノグラムの臨床的有用性の検討

東野 博 棚田 修二 渡部 真二  
 宮川 正男 山田 雅文 菊地 隆徳  
 村瀬 研也 飯尾 篤 濱本 研  
 (愛媛大・放)  
 横山 雅好 (同・泌)

尿細管分泌薬剤である I-131-OIH によるレノグラムは分腎機能検査法として評価が確立されているが、核医学的によりすぐれた I-123-OIH レノグラムを25例に施行し I-131-OIH レノグラムと比較検討した。

I-131-OIH レノグラムの種々のインデックスは I-131-OIH レノグラムと良好な相関を示し、分腎機能診断法として同等の価値があると考えられた。

I-123-OIH 投与は I-131-OIH 投与と比べ腎臓領域に高いカウントが得られ、I-131-OIH にはない動態画像の診断的価値が認められた。

I-123-OIH の動態画像は経静脈性腎盂造影と比較すると、尿の停滞を鋭敏に反映すると考えられた。

## 7. 肥大型心筋症における TI 安静時 washout rate の検討

東野 博 棚田 修二 宮川 正男  
 望月 輝一 村瀬 研也 中田 茂  
 山田 雅文 飯尾 篤 濱本 研  
 (愛媛大・放)  
 藤原 康史 (同・二内)

TI-201 心筋 SPECT で肥大型心筋症22例の安静時 washout rate について検討した。

心筋全体の washout rate が低い A 群が4例、肥厚部位の washout rate が周囲の心筋より低い B-I 群が1例、同等の B-II 群が14例、高い B-III 群が3例認められた。

B-I の1例は、B-II 群・B-III 群と比較すると、EF が低く肺のカウントが高く心機能が低下していることが考えられた。

B-II 群と B-III 群を比較すると、B-III 群は全例初期分布像で心尖部と下壁の uptake が強いという特徴があったが、検討した項目では示されない病態の相違を表しているものと考えられた。

## 8. TI-201・SPECT の食道癌への応用

田内 美紀 須井 修 向所 敏文  
 棚上 彰仁 柏原 賢一 吉田 秀策  
 西谷 弘 (徳島大・放)  
 高麗 文晶 河野 吉宏 (徳島県立中央病院)

放射線治療の適応となった食道癌3症例に TI-201・SPECT を施行し、有用な所見が得られたので報告した。

TI-201 chloride 4 mCi (148 MBq) を静注後10分後と4時間後に撮像した。

全症例に上部消化管 X 線検査で認められた病変部に TI-201 の集積がみられ、特に2症例では X 線検査よりも広い範囲に集積がみられた。また、一部に放射線治療 (50 Gy) を行った症例では、未治療部位に TI-201 の集積がみられたが、治療部位への集積ははっきりしなかった。

食道癌の病変範囲の認識および治療効果の判定に、TI-201・SPECT の有用性が今後期待される。